

令和6年度学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立総合工科高等学校 学校運営連絡協議会(定時制課程)
- (2) 事務局の構成 教務主任、進路指導主任、生活指導主任、工業科主任 計4名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、教務主任、進路指導主任、生活指導主任、工業科主任 計7名
- (4) 協議委員の構成
保護司、管轄警察署担当係長、近隣中学校長、元大学教員 計4名

2 令和6年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会(第1～3回)の開催日時および内容等
 - 第1回 令和6年6月21日(金)内部委員7名、協議委員3名
これまでの教育活動に関する報告
協議委員からの教育活動に対する意見、協議
 - 第2回 令和6年11月19日(火)内部委員7名、協議委員3名
これまでの教育活動に関する報告
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
 - 第3回 令和7年2月4日(火)内部委員7名、協議委員4名
これまでの教育活動に関する報告
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
- (2) 評価委員会の開催日時および内容等
 - 第1回 令和6年11月19日(火)内部委員3名、評価委員1名
学校評価の観点および項目、評価内容の検討、実施時期の検討
 - 第2回 令和7年2月4日(火)内部委員3名、評価委員1名
学校評価の観点および項目、評価内容の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲と実践」「保護者との連携」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の対象・規模、実施時期
 - 12月 全校生徒 対象:13人 回収:10人 回収率:76.9%
 - 12月 保護者全員 対象:13人 回収:9人 回収率:69.2%
 - 12月 教職員 対象:24人 回収:18人 回収率:75.0%
- (3) 主な評価項目
学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備、ライフ・ワーク・バランスの推進などの評価について、生徒・保護者・教職員ともに共通に17項目を設定した。
- (4) 評価結果の概要
昨年度と比較し、概ね生徒及び保護者から肯定的な回答を得ている。保護者からは項目2、4、6、7、10、12、14、15、16について全て肯定的な回答となっている。
項目1、3、4、5、8、11、13、15、17について、生徒と保護者・教職員において 回答に乖離が生じている。

その内、「学校教育全般」「進路指導」において、生徒は概ね肯定的な回答に対し保護者・教職員が否定的な回答となっている。このことから、保護者・教職員は生徒が求めている成果より高い成果を求めていることがわかる。生徒自身がより高い目標設定ができる精神力と向上心が持てる、興味関心が持てる授業への取組みが課題である。教職員と生徒および保護者との解釈の乖離がなくなるように、教育活動全般において丁寧な説明が求められる。

(5) 評価結果の分析・考察

昨年度の結果から全ての項目について生徒の肯定的な回答が上昇した。昨年度の否定的な回答が項目4～5、8～11、14～15が20%台、その他は7～14%であったが、今年度の否定的な回答の6項目すべてが20%以下であった。昨年度に比べ否定的な回答が大幅に少なくなった。

保護者からの意見において「総合工科に入ってからすごく成長している」と回答されていることから、本校の指導については満足されていることが伺える。

回答率についてはほぼ問題が無いと捉えているが、生徒数が少ないことから回答のパーセンテージの精度が課題である。

回収数については生徒および教職員について回収率100%を目指す。保護者の回収数は昨年度より上昇した。これまで、書面による回収であったが、書面及びFormsのいずれかで回答していただくことで上昇した。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

学校運営連絡協議会全3回を対面で実施でき、協議委員の生の声をきくことができた。コロナ禍での制限が解除され、体験的な活動が実施できるようになった。生徒はコロナ禍の制限がなくなり、これから積み上げていこうとする中で、地域連携による新たな挑戦を行ってきた。また、資格取得等の取組みから進路決定につながったその経験を大切に、広報活動にも役立ててほしいというご意見もいただいた。高校教育を行う上で少人数指導にしかない難しさがあるが、生徒一人ひとりの進度に合わせた寄り添った指導が行われていることがうかがえる。教職員への労いととも、これからもこのような指導を継続してほしい。

今後も、各教員が生徒一人ひとりに対してきめ細やかで丁寧な指導を心掛け、保護者の意見や要望を親身になって傾聴していくことでさらなる向上が見込まれると考える。学校評価を良くすることが本校の教育活動の改善に繋がるよう、今後も評価と実態の整合性について検証し、より魅力的な学校作りを継続していく。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

かなりきめ細やかな指導をしているが、学校の中での教育だけでなく、社会の中で育てることが大切である。また、教職員と生徒および保護者との解釈の乖離をなくすることが課題である。情報伝達の方法を工夫する必要がある。

広範囲にわたり募集活動を行っているが、入学者数の増加にはつながっていない。募集対策の方法や時期について見直すことはもちろん、本校の魅力を在校生や近隣中学校に十分に感じてもらう必要がある。その中の一つに、定時制ならではの給食があることも魅力の一つである。さらに、給食無償化となり生徒全員が喫食できる条件となっていることも大きい。それらのことも情報発信していく。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学習指導について

コロナ禍からの切り替えが十分に行えず、授業前の「総工定ベーシック」が展開できなかった。

「一人一台端末」を活用した学習活動を充実させ、「主体的・対話的で深い学び」を実現することにより、「課題解決学習(PBL)」の推進が急務である。

(2) 生活指導について

中学校以前の教育の成果によって、生徒の人権意識や主権者意識は穏やかに向上している。教員の校内

研修を実施し、組織的な生活対応や指導力の向上を目指す。

(3)進路指導について

細やかな進路指導を展開し、希望進路100%(8年連続第一希望100%)達成を継続している。次年度以降も、生徒に動機付けをするために適切な進路講演会や説明会を設定するなど4年間を通したキャリア教育を展開する。

(4)その他

これまでも学校の教育活動を保護者に周知させるべく取り組んできたが、応募倍率の向上につながっていない。デジタル・メディア等の活用を促進し、応募倍率の向上を目指す。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1)協議委員人数 4人

(2)学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう 思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう思わ ない	分からな い	無回答
2						2

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 なし

8 その他

D X教育、Soceity5.0に対応した人材の育成を目指し、前例踏襲にとらわれないよりアクティブでクリエイティブな教育活動を実践することが求められる。デジタル・メディア、外部人材の活用等により生徒の好奇心を刺激し、「知」への欲求を高め、学校を活性化していく必要がある。

給食無償化に伴い、喫食率が上がったことで、より多くの生徒に食を通じて食の文化や食と健康について学ぶ機会となる。さらに、ともに楽しく食事をすることでコミュニケーション能力が育まれる。食育による効果は教科による指導では得られない要素を持っていると考える。そのような経験は、夜間定時制でしか得ることができないからこそ、多くの方に知っていただく必要がある。そのことから、今後外部協議委員の方たちに、生徒とともに給食を召し上がっていただき、食育の大切さを共有していきたい。